

令和8年度 シラバス 【数学Ⅰ】

1 1 新潟県立新潟翠江高等学校（通信制課程）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
必履修	4	1 2	4	2
教科書			学習書・その他教材	
改訂版 新 数学Ⅰ（東京書籍）			改訂版 ニュースト新 数学Ⅰ（東京書籍）	

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①生涯にわたって自ら意欲的に学び続け、目標に向かって努力する態度を育成します。 ②互いの人権や考えを尊重し、命を大切にすると心と行動力を育成します。 ③社会的・職業的自立に必要な勤労観や職業観を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行う～ ①多様な生徒の学習歴や興味・関心に合わせた科目選択ができる教育課程を編成します。 ②思考力・判断力・表現力の獲得を目指した、学びを充実させる丁寧な面接指導(スクーリング)を行います。 ③生徒が自学自習しやすい報告課題(レポート)を作成し、生徒の学びを深める丁寧な添削指導を行います。 ④放送視聴や平日校外スクーリングなど、通信制の特徴を活かした多様な学び方を促します。 ⑤コミュニケーション能力の伸長を図るため、生徒交流会や運動会、体験学習等の特別活動を行います。

学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な知識・技能を身につけるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容

(前期試験範囲) 1 章 数と式 1 節 文字と式 多項式の計算 乗法公式 因数分解 2 節 実数 3 節 方程式と不等式 2 章 2 次関数 1 節 2 次関数とそのグラフ 2 節 2 次関数の値の変化	(第1回レポート) (第2回レポート) (第3・4回レポート) (第5回レポート) (第6回レポート)	(後期試験範囲) 3 章 三角比 1 節 鋭角の三角比 2 節 三角比の応用 4 章 データの分析 1 節 データの分析 5 章 集合と論証 1 節 集合と論証	(第7回レポート) (第8回レポート) (第9・10回レポート) (第11回レポート) (課題学習) (第12回レポート)
--	--	--	---

学習方法

- ・ レポート
レポートの問題は、教科書の例題や学習書の問題から主に出题しています。計算問題は途中の計算式を省略することなく書くことで、内容の理解が深まります。必ず計算式を残しましょう。
- ・ スクーリング
教科書の内容を、レポートの提出期限に合わせて解説します。数学は自学自習ではなかなか理解できない教科です。義務時数に関わらず積極的に出席して理解を深めましょう。
- ・ 定期考査
前期、後期にそれぞれ1回ずつ実施します。

評価の観点の趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数や式を多面的にみたり適切に変形したりする、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する、事象を的確に表現してその特徴を表す、式、グラフを相互に関連付けて考察している、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、解決の過程や結果を考察し判断している。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎が身に付けている。

評価方法		
各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。
内容のまとめごとに、各観点「A：十分に満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

担当者からの一言
「数学は難しい」と考えている人が多いと思います。難しい（解けない）と思ったら、教科書の例題をそのまま真似するところからはじめましょう。途中の計算も常に「何をしているのか？」を意識して問題に取り組んでください。計算の跡は必ず残しておきましょう（答えのみの解答は減点します）。 NHK高校講座も積極的に活用して理解に努めましょう。